



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年10月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日 配当支払開始予定日 平成29年12月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	52,595	2.5	1,171	△4.8	1,297	60.2	901	6.6
29年3月期第2四半期	51,334	3.5	1,230	63.4	809	15.0	845	91.2

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 1,132百万円 (△21.5%) 29年3月期第2四半期 1,442百万円 (149.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	37.50	—
29年3月期第2四半期	35.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	73,126	41,606	56.9	1,731.84
29年3月期	70,747	40,714	57.5	1,694.70

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 41,606百万円 29年3月期 40,714百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	9.00	—	10.00	19.00
30年3月期	—	10.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	117,000	3.6	4,900	1.9	5,000	7.1	3,400	△6.9	141.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	27,700,000株	29年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	3,675,523株	29年3月期	3,675,457株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	24,024,510株	29年3月期2Q	24,024,716株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外情勢の不確実性や一部で国際的な緊張の高まりがあったものの、雇用・所得環境が引き続き堅調に推移したほか、世界経済の緩やかな改善を背景に輸出や企業収益などが持ち直し、回復基調が続きました。

菓子・飲料・食品業界は、景気の回復が消費の改善に結びつかない中、働き方改革などの社会構造の変化への対応に加え、高付加価値を求める需要と、節約・低価格志向への対応が求められました。

このような状況下で、当社グループは一貫して、食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、女性の活躍推進や少子高齢化による消費スタイルの多様化、価値観重視型の消費等への対応により、消費者が求める価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組み、きめ細かい店頭フォロー活動や地域のニーズに合わせた企画提案型の営業活動、品揃えの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発を通して、お客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、夏場の天候不順の影響を受けた品目があったものの、ビスケット品目、キャンデー品目、飲料品目などが伸張し、売上高は前年同期を上回りました。また、利益面では、売上高の伸張とコスト削減、生産性の向上、経費の効率的な使用などに取り組み、販売費の増加などにより営業利益は前年同期に及ばなかったものの、為替差損の減少により経常利益ならびに親会社株主に帰属する四半期純利益はともに前年同期を上回りました。

また、企業の健康経営への取り組み、従業員への健康に関する配慮を評価する株式会社日本政策投資銀行の「D B J健康経営（ヘルスマネジメント）格付」において最高ランクを取得しました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は49,374百万円（対前年同期比101.4%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目では、具材たっぷりで作る手作り感あふれる大判クッキー「マザーバイク」シリーズなどを発売しました。また、箱入りビスケットのホームカフェビスケットシリーズおよびエクセレントスイーツシリーズをリニューアルしました。季節に合わせた商品展開として、春の抹茶フェア、初夏のサマーフルーツフェア、夏季の夏塩フェアに加え、秋に向けていも・栗フェアを実施しご好評をいただきました。さらにハロウィンを盛り上げる品揃えなど積極的な取り組みも行いました。これらの活動により、焼菓子商品の「エリーゼ」シリーズ、半生商品のファミリーサイズ商品群やパッケージ商品群などが伸張したほか、オリジナルビスケットシリーズ、マイベネフィット商品群も好調に推移しました。また、チョコレート品目では、「アルフォートミニチョコレート」シリーズに新味としてディーブブロードを加えるとともに、「アーモンドラッシュ」シリーズならびにカカオ70%のチョコレートで包んだオイルinチョコ「マカダミアオイル×チョコレート」を発売しました。板チョコレート商品群のほか、チョコスナック商品群、袋チョコレート商品群なども伸張しました。さらにキャンデー品目では、「ミネラル塩飴」で「熱中症予防声かけプロジェクト」に参加し、昨年に引き続き熱中症予防の啓蒙活動に取り組みました。「フェットチーネグミ」シリーズは、人気女性アイドルグループによるテレビコマーシャルを実施したほか、ミニタイプを大袋に入れた「フェットチーネグミ mini FS」の発売や、すいかソーダ味、ゆずレモン味など季節に合わせた品揃えを行うなどご好評をいただきました。豆菓子商品群やスナック商品群では、暑い季節に辛みを効かせた味の展開やプロ野球球団とのタイアップ企画など積極的な取り組みも行いました。需要期での天候要因に恵まれずデザート品目が伸び悩んだものの、ビスケット品目のほか、豆菓子、キャンデー、チョコレートなどの品目も伸張したことから、品目全体でも前年同期を上回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は3,220百万円（対前年同期比121.6%）となりました。

飲料品目は、持久系アスリートをサポートする栄養プログラムドリンク「ウィングラム」シリーズを開発し通信販売先行で発売しました。競争激化の状況下でミネラルウォーター商品群が伸び悩んだものの、濃厚でまろやかな「おいしいココナッツミルク」が大きく伸張しました。また、「牛乳でおいしく冷たいココア」シリーズもご好評をいただき、前年同期を上回りました。

食品品目は、和風の健康素材を用いた「しょうがココア」にご好評をいただくとともに、マルチスタイルスイーツ「スライス生チョコレート」シリーズの拡販を図りました。

また、機能性食品は栄養調整食品「スローバー」シリーズが伸張しました。品目全体では、保存缶商品の需要が落ち着いたことや、既存品の粉末ココア商品が伸び悩んだことなどから前年同期を下回りました。

発売2年目を迎えた「ルマンドアイス」は、2017年5月に南九州および沖縄、同年7月に九州全域、同年9月に東海の各地域で販売エリアの拡大を図るとともに、自社工場での生産ラインを完成し供給の安定化を図りました。

その他品目では、通信販売事業は、魅力的な品揃えとリピート商材の拡充など、お客様のニーズに細やかに対応することにより、顧客の拡大とリピーターの増加に取り組みました。

自動販売機事業は、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による収益効率の向上に取り組んだほか、展開推進による台数の増加に伴って伸張しました。

また、酒類販売事業は、香りが強く苦みの効いたクラフトビール「FLYING IPA」を発売し、ご好評をいただくとともに、ギフト商品や輸出が好調に推移したことから、前年同期を上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は52,595百万円(対前年同期比102.5%)、営業利益は1,171百万円(対前年同期比95.2%)、経常利益は1,297百万円(対前年同期比160.2%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は901百万円(対前年同期比106.6%)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当連結会計年度末における流動資産は35,044百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,166百万円増加となりました。これは主に、季節変動による受取手形及び売掛金の減少があったものの、借入による現金及び預金の増加と商品及び製品の増加があったことによるものです。固定資産は38,081百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,212百万円増加となりました。これは主に、新潟工場等の設備投資により固定資産が増加したことによるものです。

この結果、総資産は73,126百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,378百万円増加となりました。

(負債)

当連結会計年度末における流動負債は23,793百万円となり、前連結会計年度末に比べ759百万円増加となりました。これは主に、期末日休日による支払手形及び買掛金の増加があったことによるものです。固定負債は7,726百万円となり、前連結会計年度末に比べ727百万円増加となりました。これは主に、長期借入金の増加があったことによるものです。

この結果、負債合計は31,519百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,486百万円増加となりました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は41,606百万円となり、前連結会計年度末に比べ892百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は56.9%(前連結会計年度末57.5%)となりました。

・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は14,538百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,542百万円増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は3,109百万円(前年同期702百万円の収入、対前年同期比442.7%)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,282百万円と減価償却費1,792百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,092百万円(前年同期1,649百万円の支出、対前年同期比126.8%)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,074百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は524百万円(前年同期1,328百万円の支出)となりました。これは主に、長期借入れによる収入1,000百万円および配当金の支払額239百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年4月27日の「平成29年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,857	14,393
受取手形及び売掛金	13,298	10,692
有価証券	139	145
商品及び製品	3,566	5,340
仕掛品	441	464
原材料及び貯蔵品	2,653	2,831
その他	946	1,203
貸倒引当金	△25	△27
流動資産合計	33,877	35,044
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	13,166	13,289
機械装置及び運搬具(純額)	8,956	9,431
その他(純額)	7,739	8,345
有形固定資産合計	29,862	31,066
無形固定資産		
のれん	1,434	1,377
その他	408	377
無形固定資産合計	1,843	1,755
投資その他の資産		
その他	5,166	5,261
貸倒引当金	△2	△2
投資その他の資産合計	5,164	5,259
固定資産合計	36,869	38,081
資産合計	70,747	73,126

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成29年 9 月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,343	11,025
短期借入金	1,649	1,799
未払法人税等	1,076	628
賞与引当金	1,070	1,366
返品引当金	35	41
その他	8,858	8,931
流動負債合計	23,033	23,793
固定負債		
長期借入金	—	750
役員退職慰労引当金	249	250
退職給付に係る負債	5,787	5,779
負ののれん	21	20
その他	941	925
固定負債合計	6,999	7,726
負債合計	30,033	31,519
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	34,026	34,687
自己株式	△941	△941
株主資本合計	40,912	41,573
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	582	700
為替換算調整勘定	△497	△454
退職給付に係る調整累計額	△282	△212
その他の包括利益累計額合計	△198	33
純資産合計	40,714	41,606
負債純資産合計	70,747	73,126

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第2四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）
売上高	51,334	52,595
売上原価	30,572	31,356
売上総利益	20,762	21,239
販売費及び一般管理費	19,531	20,067
営業利益	1,230	1,171
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	27	33
為替差益	—	60
負ののれん償却額	0	0
その他	36	47
営業外収益合計	67	144
営業外費用		
支払利息	6	4
減価償却費	4	8
為替差損	467	—
その他	9	5
営業外費用合計	488	18
経常利益	809	1,297
特別利益		
固定資産売却益	9	0
投資有価証券売却益	602	—
特別利益合計	611	0
特別損失		
固定資産処分損	31	13
減損損失	28	1
その他	11	0
特別損失合計	71	15
税金等調整前四半期純利益	1,350	1,282
法人税、住民税及び事業税	698	538
法人税等調整額	△193	△157
法人税等合計	505	381
四半期純利益	845	901
親会社株主に帰属する四半期純利益	845	901

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	845	901
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51	118
為替換算調整勘定	469	42
退職給付に係る調整額	75	70
その他の包括利益合計	596	231
四半期包括利益	1,442	1,132
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,442	1,132
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,350	1,282
減価償却費	1,668	1,792
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	△30	△35
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	6	4
為替差損益 (△は益)	376	△60
投資有価証券売却損益 (△は益)	△602	—
固定資産処分損益 (△は益)	22	13
減損損失	28	1
売上債権の増減額 (△は増加)	2,572	2,601
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,134	△1,977
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,294	685
賞与引当金の増減額 (△は減少)	272	296
その他	△1,576	△606
小計	1,715	4,054
利息及び配当金の受取額	31	35
利息の支払額	△6	△4
法人税等の支払額	△1,038	△976
営業活動によるキャッシュ・フロー	702	3,109
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付金の回収による収入	483	0
有形固定資産の取得による支出	△2,280	△2,074
投資有価証券の取得による支出	△422	△6
投資有価証券の売却による収入	605	—
その他	△36	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,649	△2,092
財務活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△838	—
長期借入れによる収入	—	1,000
長期借入金の返済による支出	△100	△100
リース債務の返済による支出	△173	△135
配当金の支払額	△216	△239
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,328	524
現金及び現金同等物に係る換算差額	△69	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,345	1,542
現金及び現金同等物の期首残高	14,596	12,996
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,250	14,538

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。